

夢さがし★発見★実現★ 文化の家市民参画プロジェクト進捗状況について

文化の家ワーキンググループ報告書から（抜粋）
—「施設利用と市民優先予約制度」について—

1 ワーキンググループ（以下「WG」）経緯と役割（H25年4月～H26年2月）

	開催回数	時間	参加人数
ワーキンググループ	10回	延べ24時間	延べ151名
世話人会	24回	延べ76時間	延べ約280名
ワークショップ	2回	—	延べ90名
合計		延べ100時間	延べ521名

① WGの特徴

市民参加者と職員が対等の立場でオープンに話し合い、WGの役割や運営方法、テーマなどを決めることからスタート。

② 文化の家市民参画プロジェクトと、WGへの幅広い期待

当初はプロジェクトの4本の軸（ワークショップ・モニター制度・アイデンカフェ・舞台見学会）職員も参加市民もWGの役割について模索しながらスタートした。

③ 役割・運営方法とテーマについての話し合い

役割…「文化の家の在り方を議論する場」 ～5回の話し合いを経て～
テーマ…「施設利用と市民優先予約制度」 ～2回の話し合いを経て～

2 WG参加者の意見などの整理

テーマについて、WG参加者の意見やワークショップ、利用者の声などを広く集め整理した。

- (1) 背景…「文化マスタープラン」を指針とする。
- (2) 起きている現象…「利用希望の偏り問題」
- (3) (2)の基本的視点…A 実務的な利用の調整。「より良い」申込方法・制度を考える。
B 利用できる施設の活用
C 文化の本質。「より良い」方法とは何をもって「良い」とするのか。
- (4) 問題のとらえ方
A…住民（納税者）を優先する意味 ～住民優先についての疑問～

◎現実的実務的な混乱

・会員名簿などの実態はどうとでもなるのではないか。
・優先登録団体への登録が競って増えればこの制度は機能しなくなるのではないか。

◎社会的意味など原則的な点

・住民かどうかという物差しは文化や芸術を育てることにつながるのか。
・文化を育てるためには「開かれている」ことが重要
・優先される住民団体と優先されない住民団体が生まれることになるのでは。

C…文化で、「より良い」こととは何か

・公立文化施設には巨額の財政負担がともなう。
利用には、利益、共益、文化的、社会的な価値が求められる。
・文化的社会的な価値の高いものが優先される。
・誰がその価値を評価するのか。



説明責任を果たす努力がなされている
⇒「より良い」

(5) 問題の改善方法

A…利用者調整方法の考え方 『より良い調整方法を一緒に探る』

- 「自主事業」と「貸し館」、「新しい住民企画支援事業」
- ガレリアなどの活用、誘導
- 料金による調整機能
- 利用者間の調整
- 利用者間調整の制度化
- 長久手市全体の利用者登録の一元化

B…施設の活用の考え方 『文化の家以外の施設の活用へ』

- ソフト面の改善
- ハード面の改善

(6) 試行期間の終了とこれからの進み方

試行の評価と、制度の本格実施についてどうすべきか

WGの大多数の意見は「廃止」

さらなる市民・利用者・鑑賞者による話し合いが必要

3 WG参加者の合意 【私たち（市民）の提言】

① 本格実施しない（市民優先制度）

批判的な意見が多く、抜本的な見直しを

② 市民参画を進め、改善意見を具体化

③ 新規受付を休止する

改善が具体化されるまで、新規受付を休止する検討を

4 これからの市民参画プロジェクトの進め方

(1) 市民参画プロジェクトの見直し

このプロジェクトは、交流、意見を聴く、話合う…等多くの役割と機能を求められる。それぞれどのような進め方が適しているか異なり、全体を見直し、仕切り直しを行う。

(2) 改善意見の具体化

「新しい住民企画支援事業」などの改善意見の具体化を、行政が中心となって検討し、推進する。